

キャラクター名 プレイヤー名

孤獨な少年、その在り処は何処へ…だれかこのエネミー使ってくれないかなシリーズ…

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	ヤクザ	カヴァー	男
	キュマイラ					
オプション			年齢	とにかく若い	性別	
覚醒	生誕	衝動	破壊	初期侵食率	80	%
出自			経験	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	123
肉体	5	1	0			6	行動値	11
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	11
精神	1	0	0			1	戦闘移動	16
社会	1	0	0			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	4		交渉		
回避			知覚			意志	4		調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
衝撃銃獣化	RC	16r+4		19		
↑+D	RC	16r+14		29		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
		ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
D:超侵蝕@魔獣の本能&雷の槍	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
C:キュマイラ	2	2	Me					
効果:	C-Lv							
イオノクラフト	5	1	Mi	至近	自身	自動		
効果:	飛行状態で戦闘移動。移動距離+[Lv*2]							
魔獣の衝撃	5	2	Me	視界		対決		
効果:	攻撃力+5、ダイス+Lv、ラウンド1回							
雷の槍	5	2	Me	視界		対決		
効果:	攻撃力+[Lv*2+4]。判定ダイス-1。同エンゲージ対象不可							
魔獣の本能	1	2	Me					
効果:	【肉体】で判定。							
完全獣化	3	6	Mi	至近	自身	自動		
効果:	シーン中【肉体】判定ダイス+[Lv+2]。素手以外のアイテム使用不可。							
ライトカスタム	1		常時	至近	自身			
効果:	【肉体】【感覚】ダイス+1。基本値+2							
龍鱗	3	3	Re	至近	自身	自動		
効果:	被攻撃時、装甲+[Lv*10]							
反射適応	4		常時	至近	自身	自動		
効果:	行動値+[Lv*2]。ボーナス無視							
生命増強	3		常時	至近	自身			
効果:	HP+[Lv*30]。ボーナス無視							
瞬間退場	1		Au	至近	自身	自動		
効果:	退場する。シナリオ1回							
至上の毛並み	★		常時	至近	自身	自動		
効果:	獣化でとる毛並みが素晴らしい							
体型維持	★		常時	至近	自身	自動		
効果:	怠けても体形が変わらない							

エネミーを考えてみまして、誰が使っていただけないかなと思って公開してみます。利用許可とかは別に必要ありませんが、ログを公開する場合とかは私が見たいのですURLとかおいて行っていただけるとありがたいなと思います。

「僕はあなたたちと一緒にはいられないんです。もう、夢を見せないで。」

893の若頭。先代が若くして亡くなったことで、幼いその身に嫌われ者の在り方を染みつけることになる。オーヴァードにさえ嫌われている彼にとって、"人"としての在り方すら奪うその運命は、彼を闇にいざなう魔の手になる。だがその手をつかもうとする者がいる。彼とともに光を見ようともがく者がいる。"友"としての在り方があることを、その少年は知らない。(今回はプロフィールも指定してみました。)

テーマは「正気を保ったラスボス」です。証拠に制限エフェクトもEロイスもありません。侵蝕率も80%です。エネミーエフェクトはあるけど、それでも瞬間退場、反射適応、生命増強の3つのみです。何故これをやったかといえば、「敵の改心イベント」がしたかったからです。もっとも侵蝕率とかその辺りにしてない人もいますっぴいけど。どの作品でもそうですが、ただトチ狂ってるだけのキ●ガイでは面白くありません。その異常性、狂っていくその真相を知ればこそその恐怖は増すと思ってます。前回の「朱股の礼装」では、自分を不幸にした最愛のPCに、裏返しも思える憎悪を向けていました。それは愛していればいほど、強い光によって生まれる影のように濃い憎悪となってゆきます。

